

# 外国語で 小説を 書くということ。

■ 講演：デビット・ゾペティ  
(小説家・若石リフレクソロジスト)

■ 司会：中西光雄  
(古文科講師)

たとえば、英語が流暢に話せる人を観察していると、英語で話すときと、日本語で話すときとで、ちょっとした(ときに大きな)人格のズレを感じることもある。日本語で話しているときはもの静かでシャイな印象を与える人が英語ではむしろ饒舌で情熱的に話し、そのズレに圧倒されることがたびたびであった。言語はコミュニケーションの道具だから、話し相手や場の違いによって話し方が違うのは当然だろうが、非母語を話すことで別人格が顕れてくるというのはいかにも極端な話だ。ところが、後に、英語でも日本語でもまったく同じように話すフラットでオープンマインドな人がいることを知って、私は深く安堵したのである。

デビット・ゾペティさんは、非母語の日本語で小説を書くマルチリンガルな人である。私が彼と話すときは常に日本語であるが、いつも謙虚で真摯なひとがらに直接触れているように思える。彼の書く小説は、ユーモアの中にせつなさがちりばめられ、いわば異人である彼が、日本語で感じ日本語で考えた感情のうねりや文体の妙に引きこまれてしまうというわけなのだ。

今回の講座では、ゾペティさんが日本語を選び、日本語で小説を書くことになったいきさつと、新作を準備しつつある小説家としての仕事の流儀をぞんぶんに語っていただくと思う。

日本における国際化が、一方的に英語化の道をつきすすむというのでは、あまりにも貧困ではないか。ゾペティさんのまなざしを通じて、私たち自身にある種の「異化作用」が起きることを期待してやまない。

(中西光雄)



デビット・ゾペティ (小説家・若石リフレクソロジスト)

スイス生まれの小説家。非母語である日本語で作家活動を行う。ジュネーブ大学日本語学科を中退して来日、同志社大学文学部国文学専攻に編入。卒業後テレビ朝日初の外国籍社員となり、報道番組「ニュースステーション」で記者兼ディレクターとして活躍。また、同社の男性育児休業取得者第1号ともなる。

1996年、『いちげんさん』で、第20回すばる文学賞を受賞。第116回芥川賞候補。1998年、テレビ朝日を退社し執筆に専念。2000年『アレグリア』で第13回三島由紀夫賞候補。2002年『旅日記』で第50回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。ドイツ語、フランス語、イタリア語、英語、日本語の5か国語に通じるマルチリンガルである。執筆の傍ら、若石健康法のリフレクソロジストとしても活動中。東京外国語大学で講師をつとめたこともある。

6月24日(火) 17:30~19:00

池袋校 西校舎別館 7E教室

入場無料  
申込不要

〒171-0021 豊島区西池袋 1-3-12

☎ 0120-198-630

● JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線池袋駅/メトロポリタン口より徒歩1分

